

第32回歴史・文化探訪の会（報告）

5月29日（日）に実施しました第32回探訪会「昭和日常博物館見学と回想法の体験」並びに令和4年度総会についてご報告申し上げます。

定刻の午前9時30分、名鉄西春駅東口に12名が集まり、探訪会を開始した。タクシーに分乗し昭和日常博物館に向かう。

玄関前で記念の写真撮影後2階の視聴覚室に行く。そこで市橋館長の挨拶と博物館・回想法について説明を受ける。以下に概要を記します。

当初は歴史民俗資料館でしたが、昭和日常博物館というユニークなものに変貌しました。昭和時代は日常生活のレベルで20世紀最も激しい変化の起こった時代です。昭和の日用品・生活用品という忘れ去られ、捨てられていく運命の小品にスポットを当て、人々の身近な生活を展示、記録、そして保存していくことが大切と考え、この博物館はそれを目標に掲げました。資料は単に懐かしいと言うだけではなく昭和の私たちの生活を記録する重要な資料です。一昨年には博物館協会賞も受賞しました。懐かしい品々は「回想法」にも活用されています。回想法については2002年から福祉と連携し開始し、脳の活性化により認知症予防が期待されます。平均寿命と健康寿命の差（現在10年ほど）を少しでも縮められたらと願っています。

その後3階の博物館の展示場に向かう。少人数で分散して昭和時代の懐かしい10万点を超す収蔵品（オートバイ、お菓子メーカーの看板や空き箱、流しや炊事道具、ブラウン管テレビ、洗濯機、遊び道具等）、再現されたお店の並ぶ街角やお茶の間、伊勢湾台風の記録等を見学、2階にも展示物があり見学、地階に向かい初代のカラーラやトラックなどの往年の自動車や二輪車等を見学した。

再び視聴覚室に戻り、回想法スクール卒業生の会「いきいき隊」5名による回想法体験を開始した。始めに大口隊長より回想法について約30分ほど説明があった。昔体験を楽しみながら語り合うことで脳内血流が数十倍になり脳が活性化し心の健康に役立つこと、グループ回想法では三つの約束（1ここだけの話に、2否定をしない、3無理強いしない）をしていること、「いきいき隊」の紹介と活動実績など。その後二つのグループに分かれて30分ほど回想法体験を行った。まず一人一人自分の出身を紹介し、その後子供の頃どんな遊びを

していたかを話し合った。魚釣り、カエル飛ばし、海で遊び蠣を割っておかずにしたなど。また、「いきいき隊」の方から、ビー玉、コマ、竹とんぼなどを貸して頂き、しばし昔に戻って遊びに興じ、楽しい一時を過ごした。最後に二グループそれぞれの代表が何を行ったかを報告し体験を終わった。

博物館を後にし、迎えに来てもらった車に分乗し昼食会場の「はやかわ北名古屋店」に移動。始めに総会を行い、令和3年度会計報告、令和4年度役員が了承された。その後新会員の方も含めお互い自己紹介、昼食を摂り、暫し歓談し、探訪会を終了。車で送ってもらい西春駅に行き各々家路に就いた。

